



## 皆様の温かいご支援に感謝いたします



災害発生が報じられると、全国から義援金やふるさと納税などの支援金、食料や飲料水などの支援物資が多数寄せられました。支援物資は、被災された地区のニーズに合わせて分配し、義援金や支援金はその用途について検討を重ね、災害の応急対策のほか、今後の復旧・復興のために使用させていただきます。

### ♡ 支援物資を届けてくださった皆様 ♡

- ♡ 国土交通省 中部地方整備局・近畿地方整備局
- ♡ 地方公共団体  
小山町・松崎町・南伊豆町・裾野市
- ♡ 藤枝 MYFC 様・藤枝 MYFC サポーター様  
掛川市 鈴木様・焼津市 伊藤様、松葉様・  
名古屋市遠藤様・東京都 齋藤様、西田様、  
保坂様・神奈川県 酒井様・一般社団法人しず  
おか里山留学支援協会代表 天野様・諸田製茶・  
坂本園・全国農業会議所・JA おおいがわ

### ♡ 11月9日時点の寄付金・義援金総額 ♡

- ♡ 義援金  
▶ 川根本町災害義援金 288万4千円  
※その他の義援金については、静岡県義援金配分委員会により、自治体の被害状況に応じて公平に配分されます。
- ♡ 支援金(ふるさと納税)  
▶ ふるさとチョイス 96万3千円  
▶ さとふる 111万800円

### 発災から2カ月

町の主要道路をふさいだ土砂は取り除かれ、傷ついた道路や配水池には応急的な修繕が行われたほか、被害を受けた住家には、ボランティアの皆様の手が入るなど、被災地域では少しずつ復旧に向けて歩み始めています。

しかしながら、未だ自宅に戻ることができず、避難生活を余儀なくされている方や家屋の片づけに追われている方もおり、心のやすらぎを取り戻すためにはまだまだ多くの時間が必要です。今後、町は町民の身に迫る危機をいかに正確にタイミングよく伝え、どのようにすれば実際の避難行動につながるのかを、検証し改善する必要があります。

そして、町民の皆様には、風水害においても『いつでも逃げられる準備』をしていただき、『自主的な避難』を第一に選択していただけるよう、改めて備えの強化をお願いいたします。異常気象が異常でなくなった近年、被災のリスクを減らすためには、何ができるのかを地域で一丸となって考え、『犠牲者を出さない』防災に強いまちづくりを目指していかねばなりません。

## 心を寄せてくださる皆様の存在が「励み」になっています

すぎやまよしひで  
壺町河内区の杉山嘉英さん宅に流れ込んだ土砂のかき出しのために、近隣住民らと協力して多くのボランティアが参加しました。「心を寄せてくださる方の存在が励み」と語る杉山さんに話を聞きました。



「おとうさん！水が入ってきたよ！」という妻の声に目を覚ますと、家の中に押し寄せる濁流が目に入りました。ただごとじゃないと思い、離れにいたる母を避難させなければと外に出ました。ヘッドライトの明かりだけを頼りに離れの2階に娘も含めた家族4人で逃げ込みました。しかし突然『ドォーン』という轟音とともに、離れにも濁流と土砂が流れ込んできました。離れも危ないと感じ、濁流の中、何とか母屋へ避難し、夜を明かしました。1分1秒がこんなにも長いと感じたことは初めてでした。24日の朝、家屋の被災状況の全貌を目の当たりにしました。母屋と離れに流れ込んだ大量の土砂、離れを貫いた大木、散乱する家財。言葉を失ってしまいました。家族の命が助かったことが何よりうれしかったです。命さえあればなんとかなる。そう自分を奮い立たせ、土砂の片づけを始めました。台所に流れ込んだ土砂は、家族だけで片づけられましたが、居間や離れの土砂には手を付けられず、近所の皆さんや災害ボランティアの力をお借りしました。連日、自分のことのように足を運び、片付けをしてくれた皆様や電話や

手紙で励ましてくださった皆様など、心を寄せてくださる方々の存在がとても励みになりました。築250年余の自宅が被災し、以前の生活を取り戻すことは難しいかもしれませんが、今は片づけで頭がいっぱいですが、先祖が守り継いできた自宅と文沢地区の山林を守っていくことが私の仕事です。その拠点として何とか再建を視野に頑張りたいと思います。この度の台風を受けて、地域防災の重要性を再確認することができました。前回は被害がなかったから大丈夫だという慢心は絶対に改めるべきです。日頃から地域防災訓練や行政との無線交信の成果が、今回大いに役立ち、私たちの命をつなぐことになったと感じます。『ひとりでは何もできない』と痛感した台風第15号でしたが、一方で地域コミュニティの重要性を実感させてくれました。これは壺町河内区だけでなく、どの地区にもいえることだと思います。今回の台風被害に関する対応を今一度見直し、今後の教訓としながら、地域防災力の強化維持を町全体で取り組んでいくことが必要だと思います。

### 11月11日時点で活動した災害ボランティアは延べ63人に。支援の輪は広がり続けています。



▲ 川根高校生(左)も土砂の片付けに参加。「少しでも力になりたい」と話す



▲ 連日、土砂のかき出しに参加したボランティアの皆さん

- ♡ 災害発生後の9月27日から社会福祉協議会が災害ボランティアの募集を開始。被災地のニーズに合わせて支援活動を行いました。
- ♡ 今後も、行政×社会福祉協議会×NPOの3者協働で、被災された方に寄り添った支援活動を行っていきます。